



# 信州飯田 座光寺便

麻績の里

2018.8  
No.27  
万才

座光寺エリア  
万才 世帯数: 42戸  
(H30.7月未現在)

麻績の里 座光寺便 万才号

平成30年8月発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺25335 TEL 0265-22-1401

万才は北東に下るゆるやかな丘陵に開けています。南アルプスを背景に、果樹の花が咲き競う風景はこの地の宝物。複雑で立体的な段丘地形が、花の絶景を造っています。

江戸時代の五人組「城」「古市場上」「古市場下」が戦中に合併し「万才」となりました。主要街道が通っていた上段と下段を結ぶ道路に沿って、人家が増え集落が形成されてきました。現在も万才線の沿線に家々が散在しています。

北本城跡、耕雲寺も万才に位置しています。

桃や梨など、果樹の花が谷を美しく染め、桃源郷を想わせる春の万才。カメラに収めようと多くの写真ファンが訪れる

・麻績の里●座光寺便からのお知らせ



座光寺には竹田人形館もあり、人形劇は身近な存在といえるでしょう。今回のようなイベントを通して、もっと地域に根付いていくほしいと思います。

座光寺には竹田人形館もあり、人形劇は身近な存在といえるでしょう。今回のようなイベントを通して、もっと地域に根付いていくほしいと思います。



「ふるさとパック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。

ふるさと  
味覚満載便  
2,000円(送料別)

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成30年9月20日
- お届け時期 平成30年9月末頃

※代金は商品到着後にお支払いください。

飯田の夏の一大イベント「いいだ人形劇フェスタ」が、8月3日(金)から12日(日)の10日間にわたって開催されました。今年は「人形劇のまちが生まれて40年」を記念して

「世界人形劇フェスティバル」が併催され、市内は人形劇人や観劇を楽しむ親子など多くの人が賑わいました。

人形劇フェスタの特徴のひとつは、上演の会場分散方式です。座光寺でも8月11日、座光寺公民館を会場に、プロによる上演や即興の人形劇体験など、人形劇をより楽しむ企画が催されました。

注目を集めたのは座光寺小学校4年生の2クラスの上演。大勢の観客を前に、堂々と元気よく演じきることができました。

## 世界人形劇フェスティバル開催! 座光寺も大いに盛り上がりました



名称	造成年
半の木堤	明和8年(1771)
古市場大口堤	安永2年(1773)
古市場大口井新堤	文政3年(1820)
大口井美女新堤	天保3年(1832)
小原新堤	天保3年(1832)
大口井美女裏堤	明治4年(1871)
日影田堤	不明



寺では15の堤が造成されていますが、このうち半数に近い7つの堤が万才に造られました（別表）。

さらにこの7つのうち、古市場大口堤、古市場大口井新堤、大口井美女新堤、大口井美女裏堤、日影田堤は今も現役です。

堤の役割は低下し、使われなくなつた堤もあります。また長い年月の間に砂が流入し、貯水量も減少してきました。歴史ある万才の名所ともいえる堤を訪ね歩いてはいかがでしょうか。



### 万才 地名考「美女」

広域農道と万才線が交差する信号機に「座光寺美女」の文字が表示されています。初めて目にする人は「ん?」と思いますが、正しくは「びじょ」とではなく「びじょう」と読みます。

寛文6年(1666)の検地帳にも「びぜう」と記されており、古くからの地名であることがわかります。ただ「美女」の字は載っていないので、これは後に充てたものと考えられます。では「びじょう」とは何に由来するのでしょうか。地名「美女」は「びしょびしょ」

よ」が語源で、じめついた湿地帯をいうとする説があります。全国には美女平、美女峠、美女沢、美女木など「美女」の字を充てた地名が見られます。いずれも元は湿地帯であったとする説です。「びしょびしょ」→「びしょう」→「びじょう」と転じたのか…? ちなみに全国の「美女」は「びじょ」で、「びじょう」と読ませるところは見当たりません。

もう一説は、「じょう」は「城」、つまり古い時代に屋敷があったところと考える説。万才(半の木、古市場)には「じょう」の付く地名が散見できます。さらにこの説を進めて「び」を「ひ=火」とすれば、狼煙を上げた砦とも考えられます。かつて近くには戦国期の丘城・北本城がありました。

一方、万才という地名も全国に散在しています。座光寺の万才は戦中に誕生しました。

昭和3年に座光寺に完成した水道貯水施設を、同年に挙行された昭和天皇御大典から「万才清水」と名づけたと伝えられています。地名の「万才」もこのような時代背景が影響しているのかもしれません。



## 歩けば!が見えてくる 座光寺 19地区探訪⑯ 万才



文久2年の座光寺村絵図（松村淨氏蔵）の、現在の万才に当たる箇所には、耕雲寺、4カ所の堤、数軒の家が描かれています。耕雲寺の総門、羅漢門は現在と変わらずに描かれています。

かつて桑園におおわれていた日当たりの良い丘陵地は、現在は梨や桃などの果樹栽培に活かされています。南大島川が刻んだ渓谷は変化に富んだ地形を造っています。特に4~5月の新緑の時期には百花繚乱の花の谷の風景が見られます。



### 万才 堤めぐり

万才といえば花の風景、北本城城跡、耕雲寺などがすぐ思い浮かびますが、堤も欠かせないひとつです。万才では5つの堤が現在も水を湛えています。

堤はかつて田用水として欠かせないものでした。江戸から明治期にかけて、座光

### 古地図に描かれた風景